令和５年度　北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

1　報　告　地　区：釧路地区

2　事例報告学校名：弟子屈町立和琴小学校

3　報告者職・氏名：校長　大　山　道　弘

4　キ　ー　ワ　ー　ド：地域の教育資源を活用した生かしたふるさと教育

1　はじめに

弟子屈町立和琴小学校は、校歌の歌詞が「四方を囲む　カルデラの　山にならって……」で始まるように、国内最大の屈斜路カルデラに立地する学校である。明治39年開設の屈斜路簡易教習所（後に屈斜路尋常小学校）と大正３年開設の尾札部教習所（後に尾札部尋常小学校）が昭和７年に統合し、和琴尋常小学校が開校した。令和５年度の児童数は９名、４学級（特支１含む）の極小規模校である。

本校は、阿寒摩周国立公園内にあり、春にはグラウンドにエゾユキウサギが遊びに来る。また、秋には学校の敷地内をエゾリスがクルミを咥えて走り回り、アカゲラが木を突いている。そのような自然豊かな立地条件を生かし、ふるさと教育に力を入れている。

2　地域の環境、人材を生かした取組

(1)　ふるさと学習

令和５年度弟子屈町教育行政方針には、「子どもたちがふるさとのよさを知り、今後のまちの在り方について探究的に学習を進めることは、社会に参画しようとする態度を育成する上で重要」と示されている。そこで本校では、自然・人・産業に関わる総合的・体験的な学習を通して、ふるさとのよさを知り、自己の生き方を考える教育の充実を図っている。

・ふるさと体験学習（夏・冬年２回）

友達や地域の人々と共に自然体験活動に親しみ、自然豊かな弟子屈町や屈斜路地域のよさに気付くことを目的に、夏は乗馬体験や釧路川・屈斜路湖のカヌー体験、酪農体験、冬は摩周湖や川湯周辺で歩くスキーを実施している。令和５年度は、乳搾りなどの酪農体験を実施し、地域の産業についての理解を深めた。

・ふるさと遠足

隔年で和琴半島や硫黄山に行き、地域の自然を再認識する活動を行っている。令和５年度は、和琴半島フィールドハウスの方のガイドで和琴半島を１周した。日常的に遊んでいる場所でも、説明があることで、植物や動物について新しいことを発見できた。

・ブドウ収穫体験

地域のブドウ圃場で弟子屈町産のブドウ100％の赤ワイン「葡萄色の旦（えびいろのよあけ）」の原料になるブドウの収穫体験を実施した。学校の近くのほ場で町長のお話を伺ったり、栽培や収穫の方法を教えて頂いたり、新たな地域の産業について学ぶことができた。

・地域文化体験

地域で活躍する方を講師に招き教わることを通して、地域のよさに気付き、地域の人との新たな結びつきを目的として実施している。令和５年度は、木育マイスターの方に講師をお願いして、学校敷地内の木の葉を使ったタペストリー作りを行い、多くの種類の木の葉とふれあうことができた。

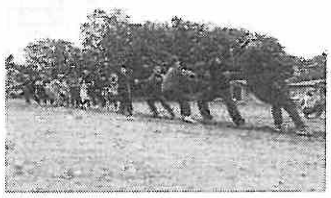
・アイヌ文化体験教室

アイヌ民族資料館の協力のもと、アイヌ伝統の踊りや音楽、アイヌ模様と刺しゅう、アイヌ料理についての体験を３年サイクルで実施している。令和５年度には、低学年はアイヌ模様の切り絵とペーパークラフト、中・高学年はアイヌ模様の刺しゅうに挑戦した。

• **郊外清掃（春・秋）**

自分たちの生まれ育った地域の清掃活動を通して、環境美化への意識と地域への愛着心を育てることを目的に、学校周辺のゴミ拾いを年間２回実施している。ゴミの多さに子どもたちは驚き、環境を守ることの大切さを考えるきっかけになっている。

• **自治会との合同運動会**



児童だけでは競技の参加人数が少ないので、保護者と自治会の皆さんにも一緒に参加していただける競技を作り実施していた。コロナ禍で自治会との合同開催が途絶えていたが、令和５年度から本格的に合同開催が復活し、子ども、保護者、地域が一緒に競技に参加して盛り上がることができた。また、子どもたちは「地域の方と一緒に運動会をしたい」、自治会は「子どもたちのために合同運動会にしよう」という思いが合同運動会の実施につながった。前日準備・当日の片付けも自治会の皆さんと一緒に行い、子どもと地域の方の交流する場面になっている。

(2)　**かがやきタイム（総合的な学習の時間）**

• **目標**

探究的な見方・考え方を働かせ、屈斜路や弟子屈町の自然・人・産業に関わる総合的な学習を通して、自ら課題を立て、情報を比較・関連付けながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするための資質・能力を育成する。

• **目標を実現するための探求テーマ**

〈中学年〉　屈斜路の自然環境を生かした産業と屈斜路で働く人々の思いや願い

〈高学年〉　弟子屈町の自然環境を生かした産業と働く人々の工夫や努力、これからの弟子屈町と自分たちの生活

• **令和５年度の実践**

中学年は地域の自然とアイヌ文化の学習を通して、屈斜路地区のよさや地域の文化として受け継がれている先人の思いを考える。

高学年は摩周メロン作りを通して、先人の苦労や地域の方々の思いについて考える。家庭菜園ではなく、農業としてのメロン作りの大変さを学ぶために、メロン農家さんに来ていただき、栽培の指導をしていただいた。

(3)　**地域行事への参加**

• **屈斜路神社子ども相撲大会への参加**

地域の行事や伝統を体験するために、地域の神社祭の相撲大会へ参加している。

• **屈斜路自治会敬老会への参加**

地域の敬老会への参加を通して、地域行事に関心をもち、地域の一員としてお年寄りとの交流を深める。令和５年度は対面で敬老会が実施され、子どもたちはよさこいソーランと校歌斉唱の発表を行った。プレゼントを渡し地域の方に直接感謝の言葉を伝えることができた。

3　おわりに

子どもたちにとって、生まれたときから身近にある自然・人・産業の素晴らしさに、自ら気付くことは、とても難しい。そこで、学校教育で気付くためのきっかけをつくることが必要である。そのためにも、学校が積極的に地域の方と接していくことが重要になると考える。

今後、小中高等学校が連携し地域を学びのフィールドとした探究的な学びの一体的な充実を図るため、小学校から高校までの「ふるさと学習」を系統性の視点から見直し、扱う学習内容を意図的・計画的に設定し取り組むことが必要になる。

また、約３年間のコロナ禍を経て、地域（自治会）との取り組みが再開されてきている。子どもたちが地域の方々の願いを感じる貴重な機会として、今後も大切にしていきたい。